



Paulownia

建学の精神 神を畏れることは知識のはじめである

Vol.319
2018.5.21

Paulownia とは中部学院のシンボルである「桐」の英語表記で、かつては大学祭を「ポロニア祭」と呼び、学生に親しまれてきました。

シティカレッジ関 / 吹奏楽部

大学生が中学生に楽器手ほどき 40人が“センパイ”から技術を学ぶ



吹奏楽部員から手ほどきを受ける中学生ら＝関キャンパス

“センパイ”から楽器の手ほどき。吹奏楽部の部員が中学生に楽器の手ほどきをレッスンする講座「吹奏楽のための楽器別グループレッスンー現役学生が丁寧にお教えますー」が開講し、県内の中学生合わせて5校の生徒約40人が参加しています。

この講座は、本学の生涯学習講座「シティカレッジ関」の1講座として昨年度から開講しています。講座開設のねらいは、楽器の習得に時間を要する中学校の新人部員を対象に、本学の吹奏楽部員が、楽器別のレッスンを行うことにより、専門の指導者による技術向上、学校部活動の負担軽減、音楽による中学生・大学生の交流促進を図ることです。

レッスンは、フルート、クラリネット、サクソ、トランペット、トロンボーン、ホルン、ユーフォニアム、チューバの8パートに分かれて行われ、吹奏楽部員は正しい演奏の姿勢や息づかいなどを丁寧に分かりやすく伝えました。参加した生徒からは「優しく教えてくれて、前よりも良い音が出せるようになったように感じます」などの声が聞かれました。最終回では、全員で曲を合奏する予定です。

□ 講座内容

コンクールに向けて技術向上を目指す中学生を対象に、正しい楽器の取り扱い方、メンテナンス方法、基本的な奏法など、それぞれの希望に応じて優しく丁寧にレッスンします。

□ 対象 中学生（場合により小学生も可）

フルート、クラリネット、サクソ、トランペット、トロンボーン、ホルン、ユーフォニアム、チューバ

□ 期間 2018年5月12日（土）～2018年6月30日（土）（全6回）



中部院大生が“先生”

中学生に楽器演奏指導

関市桐ヶ丘の中部学院大関キャンパスで、

同大吹奏楽部の学生が

県内の中学生に楽器を指導する講座が始まった。6月30日までの計6回の講座で、新しく

楽器を始めた中学生が技術の習得を目指す。講座は、指導者不足

などが課題となっていた部活動の支援や、音楽を通して中学生と

大学生の交流促進を目的に昨年からはじめた。丁寧に指導する学生

市桐ヶ丘、中部学院大関キャンパス

フルートやクラリネットなど楽器ごとの9コースに、県内5中学校の約40人が参加。各校の約40人が参加。各校の約40人が参加。各校の約40人が参加。

が、楽器のメンテナンス方法や、基本的な演奏方法などを丁寧に指導した。

フルートを習う東長良中学校1年の丹羽芽依花さん(12)は「とても親切で分かりやすい。習ったことを家でも復習して、しっかり身に付けたい」と話した。

(森嶋双葉)